

協議会だより

DHA・EPA協議会

〒151-0062

東京都渋谷区元代々木町 32-7

一般財団法人日本水産油脂協会内

TEL & FAX: 03-3469-6931

URL: <http://www.dhaepa.org/>

E-mail: dha_epa@par.odn.ne.jp

マルハニチロ株式会社 昌子 有

当協議会の活動の一つ、文献抄訳の中に、次のような標題の学術情報を見付けた。

“Projected declines in global DHA availability for human consumption as a result of global warming.”

地球温暖化によって、水生食物連鎖の基点、藻類のDHA合成が縮小し、魚への取り込みが減少し、その結果、人間への供給も乏しくなるとの内容だ。そう言えば近年は、以前のようなEPA含量が高いイワシ油やAnchovy油を、減多に見掛けなくなった。地球温暖化のせい？と、何となく思っていたが、このような記述を見るにつけ、やはりそうかと、筆者は勝手に得心している。

ここからは、筆者の妄想部分なので、学術的裏付けは求めないで頂きたいが、藻類の生息温度、即ち水温が上昇すると、適切な流動性が必要な細胞膜にとって、融点が低いDHA等の高度不飽和脂肪酸の必要性が下がる、と言うことなのか。藻類にとっては、生合成経路の最終段階に位置する、恐らく合成にエネルギーを費やすDHAはもはや不要で、より簡単に手に入る、不飽和度の低い脂肪酸で十分になっているのではないか。これを餌とする魚にとっても、DHAが少なくても、藻類と同様、あまり不都合は無いただろう。当然、魚油中のDHA含量は低くなる。

では、人間も地球温暖化によって、DHAの必要性は下がるのではないかと…残念？ながら、人間は恒温動物なので、細胞膜周辺の温度は、藻類や魚のそれより、はるかに安定しているはず。加えて、DHAは人間にとって、細胞膜の流動性に関与するだけではない。生体調節機能を担う、多くの生理活性物質の生合成原料となっていることが、これまでの研究成果で知られている。DHAはやはり、環境に関わらず、人間には必要なのだ。

冒頭の情報には、地球温暖化により将来、人類はDHA欠乏に見舞われる、と書いてある。ならば、対策を打たなければならない。DHAの発酵生産では、とても必要量を賄えるとは思えないし、化学合成も困難。やはり、地球を冷やすしか無さそうだ。

以上、書き終えて読み直してみると、当たり前のことを、妄想を膨らませて書いていただけに過ぎないが、敢えて活字にしてみた、と言うことで、ご寛容願いたい。

《幹事会のうごき》 令和元年12月5日(木)15:00~17:00に一般財団法人日本水産油脂協会新館において令和元年度第8回幹事会が開催された。

- ・次年度総会における「総会講演会」の講師について検討した。講演内容として、「持続可能な開発目標」SDGs及び「日本を取り巻く水産資源」についての講演を考えており、講師が決まりましたら改めてご連絡いたします。
- ・次年度公開講演会の会場を検討し、本年同様にアイビーホール青学会館で行う事にした。

《2019年11月の魚油の輸入》

出典:財務省貿易統計

2019年11月			2019年1月~11月		
輸入量(トン)	金額(千円)	単価(千円/トン)	輸入量(トン)	金額(千円)	単価(千円/トン)
2,215	535,882	241.9	21,624	5,224,376	241.6

《魚油の国際価格》 (単位:US\$/トン)

出典:OIL WORLD

	2019年11月	2019年10月	2018年11月
Fish oil, any orig, cif N.W. Eur	1,650	1,660	1,455

<情報>チリ・ペルーの魚油生産量 (単位:トン)

出典:iffo

	第52週	第51週	2019年計(第52週まで)	2018年計(第52週まで)
チリ	1,824	3,306	134,483	136,223
ペルー	918	963	126,254	226,441